令和4年1月17日

久納会計FAXニュース

Kunoh Accounting Office
久納公認会計士事務所

2022年1月号 今年はどんな年

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。今回のテーマは例年通り、干支から考える今年の予想です。ちなみに今年の干支は壬寅（みずのえ・とら）です。

「壬」と「寅」の意味

まず「壬（みずのえ）」ですが、これは、織機の中の糸巻き心棒を描いた「Ｉ」型の字が原形で、この中央に糸が巻かれ、やや膨れた姿になった象形文字です。故に「壬」は大きくなって膨らんだ状態を示す漢字と解釈されています。

意味としては三通りの意味があります。第一は、「荷を担うこと」です。古書に「壬は任と通じ、担うなり」とあります。この担うということから、事を担当する、役目に就く、責任をもつという意に用いられ、任命・任用という言葉が生まれました。

第二は、はらむ（妊）で、壬を象形的にみると、女性の懐妊の形を示すとされています。まさしく、おなかが膨らんだ状態を示し、真ん中の一が長いのはそのためです。

第三は「へつらう」です。意志が弱く、人にへつらう人間を「任人」といいます。任人は佞人（ねいじん）に通じ、口先だけの信のおけない人間を意味するようになりました。

この三通りの意味が示すように壬の年は、人事に最も注意を払わなければならない年です。大切な役割を「任人」が担うようになれば、深刻な事態に発展します。

また、寅は「演」に通じ、進展を意味します。「たすける」「動く」という意味も兼ね備えています。しかし、物事は進んで行くときに失敗はつきものです。その警鐘を兼ねて古代中国で恐れられていた虎に当てはめるようになったと言われています。ほとんどの人は寅に「畏れつつしむ」という意味があることを知りません。むしろ、何か景気がよいことのように思い込んでいます。しかし、本当の意味は反対で、畏れつつしみながら、進展することを表します。

昨年のふりかえり

昨年のFAXニュースで2021年は「革新の年」と書きました。はたしてどのような「革新」があったのか、難しいところですが、上げるとすると、突然の菅総理大臣から岸田総理大臣への交代、あるいはアフガニスタンでのタリバンの政権掌握くらいでしょうか。もしかすると、我々の知らないところで「革新」が進んでいるのかもしれません。

また、西洋占星術によれば、「グレートコンジャンクション」が発生しており、これよって、物質的な豊かさを求める時代から（地の時代）から精神的なもの、知性・情報、人と人との繋がりがより重視される時代（風の時代）に移ったということも書きました。これについては、様々なところで「DX」、「AI」などITに関わることが出てきますので、その通りのように感じます。

株価については、「丑つまずく」と言われた年でしたが、終わって見れば、日本も世界も株が上昇した年となりました。

６０年前の出来事

次に、同じ干支であった60年前と120年前の出来事を見てみましょう。

60年前は西暦1962年（昭和37年）になります。この年は、世界的にはいわゆる「キューバ危機」が起こった年です。日本では、戦後初の国産旅客

機であるYS-11が完成したほか、映画「海賊と呼ばれた男」の中に登場する出光興産のタンカー「日章丸」（当時世界最大）が進水した年でもあります。キューピーの「3分クッキング」も、この年に始まりました。

災害面では、事故が多い印象です。飛行機の墜落事故（4件）、列車事故（5月、三河島事故:160名死亡）、船舶の衝突事故（11月、40名死亡）が発生しています。また、大規模雪崩（ペルー：死者4000人以上)、三宅島の噴火などもありました。

この年の株価騰落率はマイナス0.8%と芳しくありません。寅年の過去6回の勝敗は1勝5敗と十二支中最下位のようです。また、壬の年の勝敗も4勝3敗と今ひとつのようです。

１２０年前の出来事

120年前は西暦1902年（明治35年）になります。10月には早稲田大学が開校し、日本初の私立大学となりました。その他には、1月に第一次日英同盟の調印・発効があり、3月に日露戦争の日本海海戦で旗艦となる戦艦三笠が竣工しています。災害としては伊豆鳥島が大噴火し、島民125名全員が死亡ということがありました。映画「八甲田山死の彷徨」でも知られる八甲田雪中行軍遭難事件も起きています。海外でも西インド諸島のマルティニーク島で火山が噴火し、その火砕流のため、32,000人が犠牲になるという大災害が発生しています。

今年は確実に進む年

さて今年ですが、干支からは確実に進んでいく年であることが予想されます。「壬（みずのえ）」は「膨らむ」、「寅（とら）」も「進む」という意味だからです。今までの流れがさらに加速する予想です。また、壬の年は人事に注意に払う年だとされていますので、人事の適材適所に心がけていただければと思います。

60年前、120年前の出来事で気になるのは、災害・事故が多かったことです。今年も年初から、トンガで海底火山が大噴火し、その津波が日本を始め、太平洋沿岸の各国まで押し寄せるという未経験の事態も起きており、昨年の伊豆諸島の海底火山の大爆発も含め、少々気になるところです。60年前は飛行機事故が年間4件発生するなど、事故が非常に多かったことも気になります。しかし、60年前も120年前も、大地震は無かったようです。

株については、あまり期待しない方がよいかもしれません。理由は、アメリカの金利上昇が予想されるためです。金利が上昇すると、どうしても資産運用対象が株から債権へシフトします。このため、株価の上昇はあまり期待できないように思います。

今年の当事務所の取り組み

当事務所では、これまでと同様、みなさまのお役に立つよう努めて参ります。まだまだコロナの影響は続くため、色々な給付金・補助金などについてお客さまと共に申請していきます。

昨年対応が急がれた、電子帳簿保存法の施行は二年間猶予となりましたが、準備を進めていく必要があります。まずは当事務所で電子保存を実行します。それ以外にも、RPAやOCRに挑戦し、業務の効率化を図りたいと考えています。これらの結果をお客さまにお伝えし、業務の効率化のお手伝いができればと考えています。

今年こそ、コロナの影響が収束し、みなさまと気兼ねなくお会いすることが出来るようになることを願っています。みなさまにとっても、良い年となりますことをお祈りしております。また、お知り合いの方で税理士にお困りの方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。しっかりと対応させていただきます。

（以上）

参考文献
安岡正篤著『干支の活学』（ﾌﾟﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ社刊）
干支歳時記（越玄さんのホームページ）
ほしの恭世さんのHP、iさんのHP、各種年表、
東洋経済オンライン、ウィキペディアなど